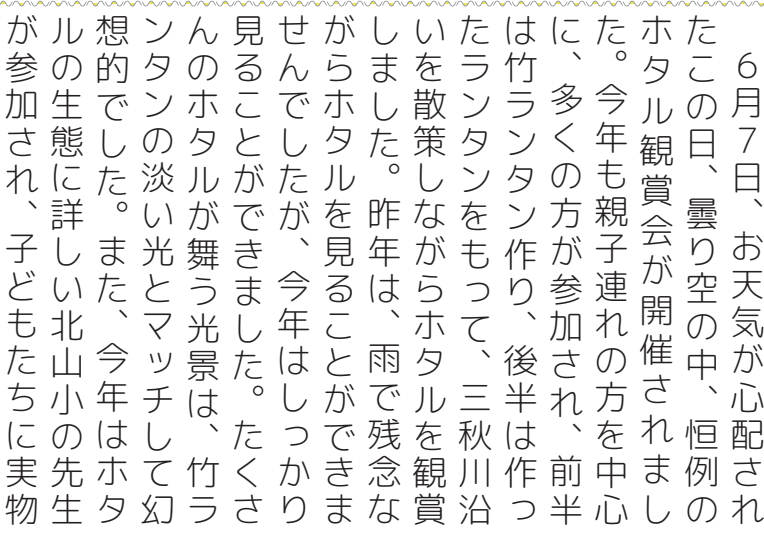




オリジナル竹ランタン作り挑戦



6月7日、お天気が心配されたこの日、曇り空の中、恒例のホタル観賞会が開催されました。今年も親子連れの方を中心に、多くの方が参加され、前半は竹ランタン作り、後半は作ったランタンをもって、三秋川沿いを散策しながらホタルを観賞しました。昨年は、雨で残念ながらホタルを見ることができませんでした。今年もしっかり見ることができました。たくさんホタルが舞う光景は、竹ランタンの淡い光とマッチして幻想的でした。また、今年はホタルの生態に詳しい北山小の先生が参加され、子どもたちに実物を



三秋川にて

ほ

た

う

る

こ

ほ

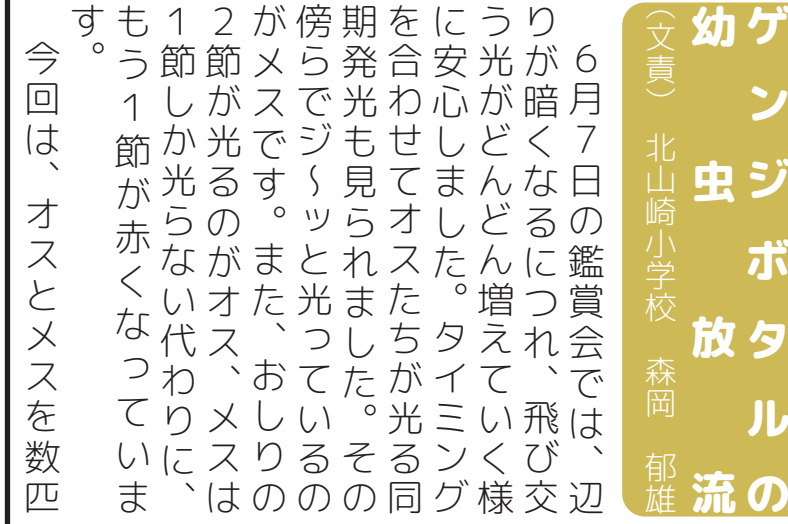
い

う

♪

♪

(文責) 原田 浩明



ホタル観賞会に参加された皆さん



竹ランタン作りしました

幼

ゲン

虫

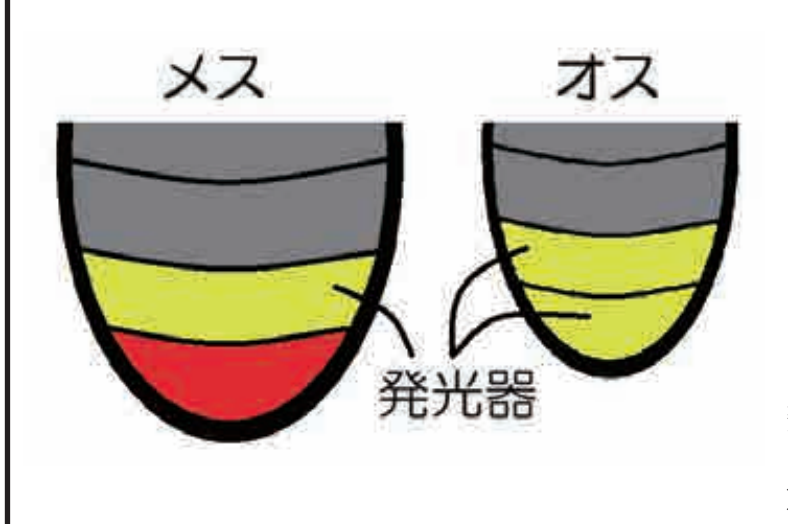
ジ

ボ

タル

流

(文責) 北山崎小学校 森岡 郁雄



メス オス 発光器

6月7日の鑑賞会では、うりやが暗くなるにつれて、飛び交う光がどんどん増えていき、最終的にオス、メスの光が混ざり合っていました。その光が、ホタルの生態に詳しく、子どもたちに実物を



ホタル放流



孵化したゲンジボタルの幼虫 約1mm

三

秋

地

区

青

少

年

補

導

員

よ

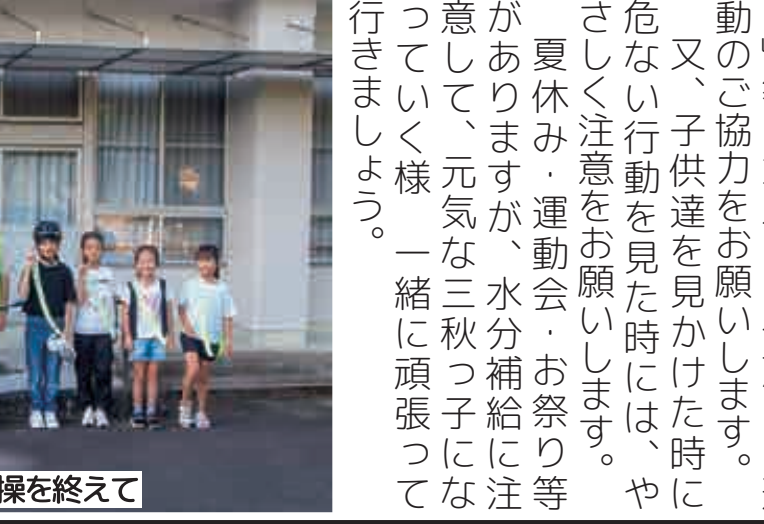
り

年

(文責) 藤岡 健司



夏休みのラジオ体操を終えて



三秋地区青少年補導員

「子どもたちへ」

「大人の人へ」

読者プレゼントコーナー

～三秋地区に残る昔の道具クイズ～

三秋地区のとある古民家の倉庫にて、明治時代から昭和初期まで使用されていたと思われる古い道具が見つかりました。

Q.この道具(写真)は何でしょう?名称と目的を次の中から選んで下さい。



名称:

あ.くるり棒(クルリボウ)

い.唐箕(トウミ)

う.掘り棒(ホリボウ)

目的:

イ.人參や牛蒡などを土の中から掘り出す

ロ.稲や麦の脱穀や大豆などの豆類を脱粒する

ハ.重い実と軽いゴミを選別する

応募方法



応募フォームこちら

※今回から新しいフォームに変わります。

宛先 〒799-3124 伊予市三秋甲271-2 地域新聞みあき事務局 宛

Eメール info.miaki@gmail.com

応募締切 2026年1月5日(月) 必着

当選発表 本紙第27号にて

※ご応募いただいた皆様の個人情報は事務局にて厳重に管理し、プレゼントの発送及び当事務局からのお知らせ以外の目的では使用いたしません。

第25号のクイズの答えと解説

答え

A(い)・(ロ)

B(あ)・(ハ)

C(う)・(イ)

解説

A.トラクター

田畑を耕し、土壌づくりをする。インプラメントにより、運搬・草刈り・肥料散布など様々な作業ができる。

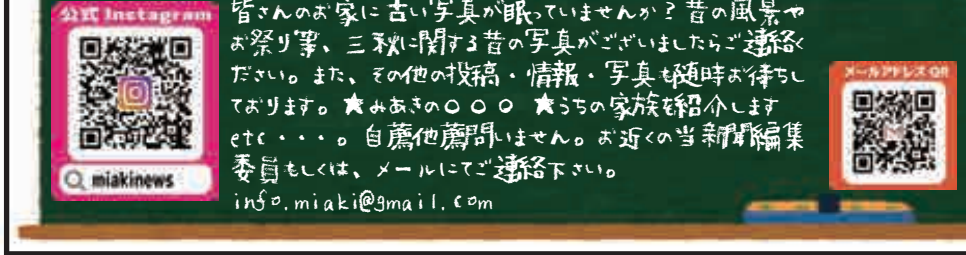
B.田植え機

育苗された稲の苗を植える。田植えと同時に肥料や薬剤散布もできる機械もある。

C.コンバイン

稲刈りと同時に脱穀・選別をする。稲以外にも麦や大豆などの収穫もできる。

第25号の当選者は伊予市の北岡さんです。おめでとうございます。



皆さんの家に古い写真が眠っていませんか?昔の風景やお祭り等、三秋に関する昔の写真がございましたらご連絡ください。また、その他の投稿・情報・写真も随時お待ちしております。★みあきの〇〇〇★3つの家族紹介コーナー...。自薦他薦問いません。お近くの当新聞編集委員もしくは、メールにてご連絡下さい。

info.miaki@gmail.com

みあき図書館

(文責・岡田 有利子)

『100歳の夢 15人の人生、100年分の言葉』

日本ドリームプロジェクト(編集)いろは出版



100歳の夢

100年生きて、今が一番幸せだ。

子どもは夢を持っている。大きくなったら何になる?大人も夢を持っている。これから何をしたい?それでは、100歳の人にはどんな夢を持っている?

この本は、男性長寿日本一になった木村次郎右衛門さんをはじめとして、15人の100歳の人に夢は何かと尋ねた本です。

100年という人生経験から寄せられた言葉は、私たちの心に深く響きます。「ありがたいありがたい思いながら、一日一日を大切に。」「自分が生きとるんやないで、生かしてもらっとるんや。」「イヤなことがやってきたら、それをいいように受け止める。」そんな心持が100歳まで元気に生きる秘訣なのかもしれません。

「この歳になっても、子どものことは見てたいと思うもんだ。」とは、102歳の廣瀬さんの言葉。いくつになっても、子どもを思う気持ちはかわりません。

「納得のいくまで髪をセットする」100歳の近藤さん。素敵なこだわりです。

いくつになっても夢を持つ。小さな夢でもいい。小さな夢がいい。

「人生は、たった一日の延長なり。」これは、前述の木村次郎右衛門さんの言葉です。「毎日がいい日であるようにと念じて、その日その日を思い残すことなく過ごしてきた。」

私もこの言葉のように、一日一日を大切に生きていきたいと思います。皆さんの毎日も、どうぞいい日でありますように。

みあき写真館

(写真・原田 浩明)



明神山と蓮の花

7月下旬に撮影しました。この日、見事な青空だったので明神山と一緒にパシャリ。

ちなみに、蓮には色別の花言葉がついており、この白い花については、「純粋」「清らかな心」だそうです。早朝の朝日に照らされて咲く花は、まさにこの花言葉そのものではないでしょうか。

編集後記

この度、地域新聞みあきの公式ホームページがリニューアルされました。これまでなかった創刊号からのバックナンバーも閲覧できるようになりました。また、全体のデザインも一新され、以前よりも見やすくなっております。尚、今回のリニューアルにより、ホームページアドレスが変更になっておりますので、ご注意ください。下記のアドレスを直接入力もしくはQRコードよりアクセスできるようになっております。今後は、こちらの新ホームページの内容を随時アップデートして参りますので、よろしくお願いいたします。


<https://infomiaki.wixstudio.com/miaki/>


「レンコンのみあき」 定着？in町家

(文責) 原田 浩明



三秋フェア朝9時オープン



朝どれキュウリの詰め放題が人気

小雨が降る8月10日早朝、手づくり交流市場『町家』にて、恒例の「三秋フェア2025」が行われ、昨年よりコラボしている「いよあかり」と共に、地場産の農産物や竹あかりなどを販売・展示。また、レンコンイベントをはじめとした「地域新聞みあき」の活動についても紹介、来場者の皆さんに楽しんで頂きました。今年は、青年海外協力隊の候補生の方々と、伊予市の地域おこし協力隊の方たちにもご協力頂き、出店ブースでは、雨に負けない盛り上がりを見せていました。そんな中、飾ってあったレンコンの葉と花を見たあるお客さんから、「レンコンのみあきよねえ？」と声を掛けられる場面も。今年で7年目を迎えるレンコンイベントのお陰で、「レンコンのみあき」というイメージが定着しつつあるのかも知れませんね。



レンコンイベントの宣伝を兼ねて花を展示



説明会の様子

三秋大池改修工事始まる

(文責) 原田 浩明



底樋全貌

現在、大池の水はほぼ排水され、一部堤防の工事が進められています。そこで、工事関係者の方より特別に許可を頂き、池底が露わになったタミングで「底樋」の撮影に行ってきた。大池築造当初からあるこの「底樋」はすべてが木製で、長い年月が経っても腐らず、ほぼ原形のままの状態が見れたことは大変貴重でした。



水が抜かれた大池

三秋のたんぽぽ

(文責) 日山 貞治

西日本では5年に1度、たんぽぽ調査が実施されています。今回の調査期間は、2024年と2025年の3月1日から5月31日までです。三秋地区では、在来種のシロバナタンポポが多く自生しています。黄色いたんぽぽは、外来種のセイヨウタンポポと一部アカミタンポポ(種の部分が赤褐色)の二種類が見られます。在来種のカンサイタンポポは発見することができません。カンサイタンポポは、



白花たんぽぽ



西洋たんぽぽ



西洋たんぽぽガク

「ハチク」が枯れる

(文責) 日山 貞治



生きた竹・枯れ竹

ハチクは、モウソウチク・マダケとともに、主要な竹の一つですが、その「ハチク」が全国各地で一斉に枯れるという、百二十年に一度の現象が、ここ三秋地区でも報告されています。



竹花

この竹林は、二年前の初夏に開花し始め、今年の春には葉がすべて枯れ、緑色だった枝や稈の色も抜け、白みを帯びてしまわれた状態になっています。なかには、折れ曲がり倒れ掛かっているものも多く見られます。開花の周期がそろってしまいう理由は諸説ありますが、地下茎の一部は生き残るため絶滅することはないとのこと。三秋に住所を移して二十五年以上になりますが、初めての現象で驚いています。

第15回わくわく体験 デイキャンプ

(文責) 愛媛県VYS連合協議会
谷本 和之



植物迷路にて①



植物迷路にて②



キュウリ収穫体験



植物迷路にて③



烏谷上り工事

伊予市防災行政無線①(ぼうさいいいよし) (文責) 日山 貞治
伊予市防災行政無線局は、伊予市地域防災計画に基づいて設置され、①防災・応急救助災害復旧に関する業務、②平時の一般行政事務の広報などに使用されます。親局が伊予市役所、中継局として森山(森・三秋・中村)の境界、標高179.1mと中山町の秦皇山の2箇所に設置されています。森山の中継局は、見晴らし



烏谷上り完成



全員で集合写真

ムが終わりに最後みんな笑顔の集合写真を撮ることができました。

烏谷橋は、橋長140.5m、幅員9.31mの鋼3径間連続非合成2主桁桁橋です。平成元年の7月から工事が始まり、下部の橋脚部分は地元の泉建設、上部の橋の部分は千葉県の横河ブリッジが担当しました。この完成により、明神山トンネル付近の坂道区間で渋滞が発生しやすくなっていたが、特にゴールデンウィークや年末年始の渋滞緩和が期待されています。



森山中継局



市内方向



左足上から

左陶器製 足狛犬見の

(文責) 日山 貞治



左後ろ足比較



明治四十二年調(愛媛県庁蔵)の愛媛県社寺一覧表には、三秋大原の水之明神社の他に、高木山厳島神社・太原天神社・石尾山素鷲神社の三社が記載されています。これらの神社とも関係があるかもしれませんが、依然謎にまつまれます。

石鎚神社祠の近くで別の狛犬の一部を発見しました。発見されたものは、左後ろ足の一部で、陶器で製作されています。造りや大きさは、本殿前の狛犬とそっくりですが、釉薬が少し赤茶色で明るくなっています。この左足が、阿像の物か云像の物か、どちらであるかは断定できません。今後この後ろ足も、専門家に見ていただき、榎鹿蔵の作品であるか鑑定していただく予定です。